

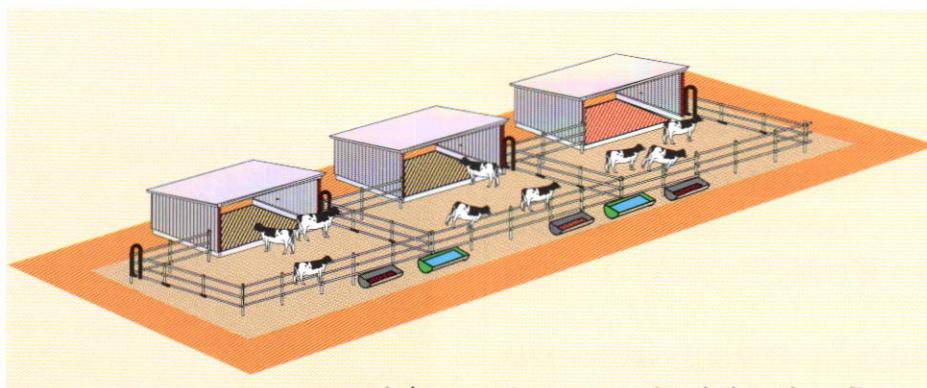
スーパーハッチ

離乳後の子牛、すなわち移行期（3～6カ月）の子牛に対しては、特別な管理が必要であると言われています。なぜなら、3～9カ月令の乳腺は体組織の3.5倍のスピードで発達するからです。この時期の発育遅延は、初産時の泌乳量に大きく係わると言われます。しかし、発育が良くても、過肥になると乳腺の発達が脂肪に置き換わってしまい高泌乳は望めません。

この時期の牛群管理のポイントは次の点が上げられます。

- ・個体から群に慣れるまではストレスが多いので、十分な観察が出来る場所
- ・月令の近い子牛で群構成をする（最大1カ月の幅）、採食スピード、食い負け牛などを観察
- ・牛体の汚れや濡れはエネルギーの消耗を助長するので、きれいな牛体を保つ（牛床・敷料）
- ・いつも新鮮な空気が吸える（十分な換気）
- ・雨、雪、強い風などの気象条件から子牛を守れる構造

この項では、簡易的な施設ですが換気や採光の面で優れた、スーパーハッチについてのポイントを現地の事例をもとにまとめました。

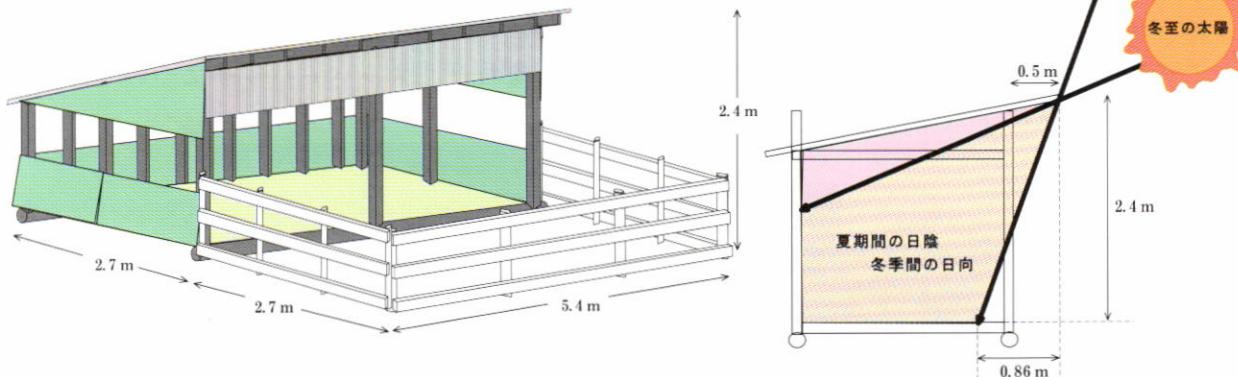


スーパーハッチのサイズとポイント

- 群をうまく管理するには1群の頭数が少ないことが重要です。そして体格の差がなく月齢の近い子牛で群構成をする事がさらに重要となります（月齢幅は最大で1ヶ月）。また、群の移動はそれ自体がストレスとなるので、1頭ごとに出入りするよりは、群構成が変わらないように群単位の移動が望されます。
- 子牛1頭当たり2.3～2.8m²のスペースを目安にします。

例えれば 経産牛100頭規模、分娩間隔13ヶ月とすれば
1ヶ月の分娩頭数は7～8頭です。そのうち雌牛は半分ですから
1群規模は、余裕を見て5頭ぐらいのスペースの広さが必要です。

5頭分（15m²）のスーパーハッチのサイズ例



スーパーハッチ建設でのポイント

- 手狭なサイズは、敷料、牛体の汚れを助長する。
- 土そりや吊りフックなどでスーパーハッチの移動が行える構造
- マンパスなど人の出入りがしやすい囲いの構造
- 換気が十分に取れるように、イーブや壁の開放が出来る構造

- 南向きに設置し、夏期間の暑熱のための日陰と冬季間の日の入りを考慮し、屋根の高さ、軒の張り出しを決定する。

※上の図は普及センターの緯度を考慮して算出した事例です。

南中高度

- ・夏至 70.17度
- ・冬至 23.37度

カーフハッチ→スーパーハッチ→育成舎 事例

育成舎を建設したが、スーパーハッチ5棟を使い移行期子牛の管理を行っています。

スーパーハッチは換気が良好で、疾病などの発生が少なく移行期子牛の管理において有利です。

しかし、育成舎内の管理に比べ敷料・飼槽管理など手間がかかります。

